

国際原子力機関設立50周年特別シンポジウムの結果について

平成19年5月8日
内閣府
原子力政策担当室

国際原子力機関(IAEA)は、その設立50周年を記念し、特別シンポジウム「原子力エネルギー：未来に向けた世界の挑戦とIAEA」を開催した。世界各国の有識者、政府機関の代表が集まり、国際原子力機関の50年間の活動と、世界の原子力発電と核燃料サイクルの現状を評価するとともに、原子力発電と核燃料サイクルの開発と安全確保に関する将来ビジョン及び国際協力について議論を行った。

1. 開催時期：平成19年4月11日(水)

2. 開催場所：青森県 ホテル青森

3. 主催：国際原子力機関

共催：内閣府、外務省、文科省、経産省、原産協会

4. 参加者：

国内外から産学官の原子力関係者約1,500名が参加した。内閣府からは、高市科学技術政策担当大臣が日本政府を代表し開会の挨拶を行うとともに、原子力委員会からは近藤委員長、松田委員、広瀬委員及び伊藤委員が参加した。

5. シンポジウム概要

・開会セッション

高市大臣、今井原子力産業協会会長及び三村青森県知事が挨拶を行い、その後IAEAウォーラー事務局次長が「IAEA50年の歩み」と題し、IAEAの歴史と現在の活動について記念講演を行った。高市大臣は、IAEAが設立50周年を迎えたことに祝辞を述べるとともに、核燃料

サイクル事業の中心である青森県での開催の意義と関係者の努力に対し感謝を述べた。その上で、世界的に原子力発電の利用が拡大しつつある背景を踏まえ、原子力安全、核不拡散、核セキュリティへの取組が一層重要となってきたこと、国際社会が団結してこれに取り組む必要があることを述べるとともに、核兵器国が核軍縮に向け最大限の努力を行う必要があることを訴えた。最期に、原子力の平和利用と核不拡散に向け、IAEAが中心となり、世界がより強い協力と実行という堅い絆で結ばれることへの期待を述べた。また、ウォーラー事務局次長は記念講演の中で、IAEAと日本が相互に重要な役割を果たしてきたこと、今後もさらに協力を進めていくことを強調した。

・トピカルセッション

カーネギー研究所リチャード・メザーブ所長を議長とし、「原子力発電と核燃料サイクル」、「安全とセキュリティ」、「核不拡散」をテーマに、各国の有識者や専門家13名が講演を行うとともに、会場を交えて質疑応答が行われた。「核不拡散」セッションでは近藤原子力委員長が「核不拡散に対する取組の動向と課題」と題し、核軍縮、保障措置及び核物質防護の動向を紹介するとともに、将来に向けた課題として核燃料供給保証、核不拡散の研究開発および核軍縮・不拡散教育を取り上げ、その上で、‘The Atoms are used only for peace’を保証するために必須である核不拡散に対するIAEAの国際社会に対する役割は確実に増していくことから、IAEAの強化が不可欠であると述べ、IAEAを激励した。

・円卓討議

東京工業大学鳥井弘之教授をコーディネータとし、「原子力エネルギー：未来に向けた世界の挑戦とIAEA」をテーマに円卓討議が行われた。円卓討議では、IAEA50年間の活動の評価、今後の原子力発電とIAEAの役割について活発な意見交換が行われた。